



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2023年3月-4月

vol. 60



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

CONTENTS

表紙
桑原裕子

2

INTERVIEW:1

『悲劇なんてまともじゃない』

32名分のドキュメンタリーが詰まった作品はなかなか無い。

山田佳奈

4

INTERVIEW:2

MONO『なるべく派手を服を着る』

皆が注目されている中で、軽んじられる感じがずっとしていた。
そのコンプレックスがスタートだった。

土田英生

6

PURA PURA

KAATがあることを、
耳にタコができるぐらい言い続ける。
長塚圭史
創作の幅を広げていく圭史さんが、
すごく楽しみです。

桑原裕子

8

TOPICS

プラットワンコインコンサート 2023 上半期
若手音楽家に活躍の場を、
お客様にはより音楽を楽しめる機会を

10

FOYER

『楽屋ー流れ去るものはやがてなつかしきー』

12

INFORMATION

PLAT

主催公演情報

14

FOYER

『楽屋ー流れ去るものはやがてなつかしきー』

15

SUPPORT

TICKET CENTER

裏表紙

市民と創造する演劇

『悲劇なんてまともじゃない』

3 March

4 [土]—5 [日] 市民と創造する演劇『悲劇なんてまともじゃない』◎PLAT主ホール

6 [月] 豊橋技術科学大学 OPERA
マルチモーダルセンシング共創コンソーシアム シンポジウム 2023
◎PLAT アートスペース

11 [土] 第33回日本医学看護学教育学会学術大会
◎PLAT主ホール/アートスペース

12 [日] 野畑さおり アレンジの世界◎PLAT アートスペース

18 [土]—19 [日] AMSが贈る平安音楽絵巻
オリジナルミュージカル『紫式部日記異聞』◎PLAT主ホール

18 [土]—19 [日] MONO『なるべく派手を服を着る』◎PLAT アートスペース

21 [火・祝] 第28回 虹の会 ピアノ演奏会◎PLAT アートスペース

24 [金] 豊橋中央高等学校吹奏楽部 第25回定期演奏会◎PLAT主ホール

24 [金] プラットワンコインコンサート
千賀さゆり&安成紅音リートデュオ「春を告げる歌曲たち」
◎PLAT アートスペース

25 [土] 豊橋おやて劇場協議会 第481回高学年部例会
『トッケビ 鬼ヶ島と呼ばれた島』◎PLAT アートスペース

26 [日] 第35回豊橋素人歌舞伎保存会定期公演◎PLAT主ホール

27 [月]—28 [火] 豊橋演劇鑑賞会 第295回例会
劇団民藝+こまつ座公演『ある八重子物語』◎PLAT主ホール

28 [火] Community Lab 大学生による人生プレゼン◎PLAT アートスペース

31 [金] 日本生花司 松月堂古流東三支部 春のいけばな展◎PLAT アートスペース

4 April

1 [土] アートバレエ 2023年定期発表公演◎PLAT主ホール

1 [土]—3 [月] 日本生花司 松月堂古流東三支部 春のいけばな展
◎PLAT アートスペース

8 [土] クインテット・アゼリア vol.2 名古屋・豊橋巡回コンサート～色取々～
◎PLAT アートスペース

9 [日] もりたピアノ教室 ピアノ発表会◎PLAT アートスペース

20 [木] ドリコムセミナー2023 大学・短期大学・専門学校進学ガイダンス
◎PLAT アートスペース

22 [土] 日本舞踊・結月流「結月会～十周年記念公演～」◎PLAT主ホール

22 [土] Dance performance 美しき地球 ONENESS◎PLAT アートスペース

24 [月]—25 [火] 朗読『“ひめゆり”を忘れない』◎PLAT アートスペース

30 [日] プラット2023年度プログラム説明会◎PLAT アートスペース



PLAT NEWS

『悲劇なんてまともじゃない』

悲しみも悪くない。まともじゃないのは面白い。

3月4日[土]、5日[日]14:30開演

原作=ウィリアム・シェイクスピア

上演台本・演出=山田佳奈

出演=オーディションで選ばれた市民/井上ほたてひも、益山寛司

会場=PLAT主ホール



山田佳奈[やまだ・かな] / 脚本家・演出家・映画監督。1985年4月6日生まれ。神奈川県出身。元レコード会社のプロモーターを経て、2010年3月□字ックを旗揚げ。以降全ての脚本演出を手掛けている。2020年自身初の長編デビュー「タイトル、拒絶」が東京国際映画祭日本映画スプラッシュ部門に選出、更に東京ジェムストーン賞を受賞。近年の主な作品に、Netflixオリジナルドラマ「全裸監督」脚本、水戸芸術劇場ACM劇場プロデュース舞台「ナイフ」脚本・演出など外部作品への書き下ろしも積極的に行っている。初小説「されど家族、あらがえど家族、だから家族は」を双葉社より出版。モーニングツーにて漫画「都合のいい果て」が連載中、2/21に単行本2巻が発売。

32名分のドキュメンタリーが詰まった作品はなかなか無い。

上演台本・演出

山田佳奈

聞き手 吉川剛史 穂の国とよはし芸術劇場PLAT事業制作部

リエット(以下、ロミジュリ)』を選んだ理由はありますか。
山田——「みんなが知っている」というところでした。今回、出演者自身のお話を舞台の中に入れて込んでいます。自分のことを自分で語る機会は案外無いですよね。それを言うことによって許せたり開き直れたりすることが、結構面白いし、出演者にとっても大切な作業だなというのが、『話しグルマ』をやった時の感覚としてありました。そういうことを今回もやるべきかなと思っています。作品を書き直していくにあたり、ロミジュリで書かれている悲劇をどうにか喜劇にできないかと。ロミジュリだと、お客さんが先入観を持って見てくれるでしょ。それを裏切っていきたい。だから、選び方としてはすごく安易です。でも恋愛劇はやりたくなかった。豊橋市でわざわざ恋愛劇を創作して、何を意義にするのだろうと。市民の人達が演劇を求めた理由に対して応えるべきかなと思ったのが理由です。

吉川——山田さんが主宰する劇団の□字ックと市民劇とでは、作品をつくるスタンスが違いますか。

山田——そもそも、□字ックと、他の仕事とのスタンスが全然違いますが、人間を描くという部分は作家としてブレないんですよ。人間に対して一番興味があるし、人間に対して一番苦手意識もあるし。その両極端が自分の生活の過程であったし、興味があるところなので、演出家なり脚本家を続けています。□字ックに関しては、女性を描くことが最初は面白かったし、女性に対しての苦手意識もあったから、それを書いていくうちに昇華させていったところがありました。けれど、年を重ねるにつれて、女性に限定して描くよりも、人間を描くのが一番面白いところに現時点はいます。色々な仕事があるから、その仕事をする上で何を見せるべきか、何を舞台上で表現するべきかを一番考えています。

吉川——今回、ステージングで参加される大石さんの役割はどういう感じでしょうか。

山田——大石さんはダンサーですが、元々演劇が趣味だと聞いたことがあります。だからどちらかというと、演劇をつくるときに、動きよりも「場所」をつくる作業をしてくれます。私が演出としてその場所を立ち動かしていったときに、実は私も気が付かなかった行間が見えてきたりします。それによって、世界観に奥行きが出てくる。人間の身体を抽象に崩す作業のときには、すごく信頼しています。

吉川——最後に、お客さんに観て欲しいポイントも含めてコメントをいただけますか。

山田——32名分のドキュメンタリーが詰まった作品はなかなかありません。それを演劇的にデフォルメした作品だから、楽しんで貰えると思います。だけど、実はすごく切実な声が多いことに気付かされる、そういう二面性を感じてもらいたいです。すごくポップだけど、すごく鋭利というか。まさに、悲劇と喜劇は紙一重という作品になる気がします。

吉川——山田さんは『話しグルマ』に続き、2回目の市民と創造する演劇ですが、改めてこの企画の魅力についてお聞かせください。

山田——演劇というコミュニケーションを通して社会と繋がっているんだなということを認識できる場のように感じています。プロの現場で演劇をつくるときに、共通言語を持って演劇をつくるのが、当たり前のこととなっています。海外とかでは、アイデンティティが違う中で生活をしているから、自分がどう思っているかを明確に伝えなければいけないけれど、日本ではバックグラウンドも似ているから、主語がなくても通じてしまう。それを我々は演劇でやってしまっているのだと気付かされます。彼らの生活や社会や文化と、私が持っているそれらを擦り合わせて、言葉を介して理解し合っていくものなのだなと実感しています。そういったことが、実は演劇では観客と作品との間に起きているのだということも、改めて感じることができる場です。

単純に、作品をつくるということが、出演者のみなさんの人生にとってスペシャルな時間でもありますよね。彼ら彼女らの人生が変わる瞬間に立ち会う作業、それがすごく尊いと思いがちながら稽古場にいます。1回目の『話しグルマ』で体感したのですが、市民と関わることで気付くものも多く、ちょうど20代から30代に移り変わるタイミングでもあって自分自身にとって大きく変化がありました。今回も32人分の気付きや、人生に立ち会うのだと思っています。それはすごく比重のかかるものだからこわいものでもあるし、大変でしんどいものでもあります。40代のはじまりの節目になる作品かなという感じはしています。

吉川——山田さんの稽古場は、いい意味で自分自身をさらけ出さないといけないし、それを促してくれるのが特徴だと思います。今回も、人生のターニングポイントになれるような舞台をつくってくれるのではないかと期待しています。

山田——演劇をやることは、自分自身と向き合ったり自分自身を解放したりと、社会性と真逆のこと。私自身も、会社員を辞めて演劇を始めた時に、無意識に社会性によって自分自身を忘れていたと気づき、それを取り戻すのが結構大変でした。やはり無意識で色々な閉塞感を自分自身にかけているのかなと思います。でもそれが取れると精神的にも身体的にも、見えるものがあったり自分が楽になれる。私が「市民と創造する演劇」をやる意義は、市民の人が演劇を通して何を得られるか。演劇をやることで、作品が誰かにとってすごく重要な一作になることが、演劇やエンターテインメントと呼ばれる文化のすごいところ。演劇は衣食住には関係ないから後回しにされがちですが、人の人生を豊かにするという意味で必要不可欠です。その根幹には必ず感動があるから、それを体感してもらいたいです。

吉川——今回、題材としてシェイクスピアの『ロミオとジュ

INTERVIEW:1

MONO

『なるべく派手な服を着る』

父危篤の知らせを受けて集まった
愚かで愛おしい兄弟達を巡る物語。

3月18日[土]、19日[日]14:30開演

作・演出＝土田英生

出演＝奥村泰彦、水沼 健、金替康博、土田英生、尾方宣久、

渡辺啓太、石丸奈菜美、高橋明日香、立川 茜

会場＝PLAT アートスペース



土田英生[つちだ・ひでお]／愛知県出身。京都を拠点に活動する劇団「MONO」代表。劇作家・演出家・脚本家・俳優。1999年『その鉄塔に男たちはいるという』で第6回OMS戯曲賞大賞を受賞。2001年『崩れた石垣、のぼる鮭たち』(文学座)で第56回芸術祭賞優秀賞を受賞。近年は劇作と並行してテレビドラマ・映画脚本の執筆も多数。代表作に映画『約三十の嘘』『初夜と蓮根』、テレビドラマ『崖っぷちホテル!』『斉藤さん』など。また2020年にはテレビドラマ『半沢直樹』に出演するなど、俳優としても活躍している。

皆が注目されている中で、軽んじられる感じがずっとしていた。
そのコンプレックスがスタートだった。

作・演出 土田英生

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT「芸術文化アドバイザー」

INTERVIEW: 2

年に1回のんびりと公演できればいいと、がつついてない。20周年の時に「夢を聞かせてくれ」と言ったら、「体に気をつけて集まろう」と。さらにそこから10年経った頃に、20代の若手4人を入れました。若い彼らが動くことで僕らも引張られれば長生きできると思ったが、今では4人も同じように「体に気をつけて」と言っています。「俺だけでも売れてやるぞ」みたいなやつがないから、ガツガツしてない代わりに、辞めない。

矢作—— コロナ禍で、ギスギスした人間関係に陥りやすい状況でしたが、MONOは、そういった点からも強かったのでしょうか。

土田—— 劇団に波風や事件がないんです。ベタベタ仲がいいわけでもないですし、用がなければ1年間会わない。京都の劇団ですが、東京在住の人の方が多い。現状の演劇の流行りに対して、ちょっとずつ違和感みたいなものを抱いていました。結成当初に「土田くんは甘すぎる」「もつと劇団員を怒鳴って、しっかりまとめないといけない」としょっちゅう言われた。しかし、そういうことがあまり好きではなかったし、威張って、お前らいうこと聞け、みたいなことは一切したくなかった。「東京に出なきゃいけない」と言った人にも違和感があり、京都で演劇ができないわけないと思っていた。そして、全国で離れていてもその時期だけ集まればできると、いつからか思いました。東京で人気が出だすと俳優に東京の仕事のオファーがくる。そうすると俳優は東京に行きたい。それを劇団が許さず、もめる話をよく聞くのですが、うちは比較的うまくいっている。

矢作—— 豊橋は、新幹線の駅があって、京都にも東京にも同じぐらいの時間で移動できる。豊橋に演出家や俳優の方が住みながら、全国で活動していただいて、PLATでお願いしたものをやっていただける状況が生まれてくると良いと思っています。

土田—— 例えば普段は豊橋で活動して、稽古の時だけ京都へ来るMONOのメンバーがいても僕は構わない。桑原裕子さんがPLATの芸術文化アドバイザーをやられているので、例えばKAKUTAがPLATの劇団として新作を作って全国に回すとか、各劇場がとうやうや劇団を持っているような形になっても面白いですよ。東京から地方に移住する劇作家、演出家の方も増えていきますし。状況は少しずつ変わってきているのではないですかね。

矢作—— 豊橋にお越しいただくのは2019年3月以来です。愛知県のお客さんに、メッセージをいただけますか。

土田—— 本当は毎年、豊橋でも本公演をやりたいと思っています。劇団員9人が揃った最初の作品『はないら』からちょっと空いてしまいましたが、メンバーは全く替わっていませんし、あれからの成長ぶりも豊橋の方に見ていただきたい。劇団としての自信作ですので、こういう劇団だったんだということを改めて感じていただけたと思います。ぜひ、劇場のほうにお越しください。

矢作—— 豊橋のお客さんも楽しみにして待っていると思います。どうぞよろしくお願いします。

矢作—— 今回のツアーで『なるべく派手な服を着る』を再演しようと思ったのはどうした点からなのでしょう。

土田—— 初演は2008年で、15年前の作品です。初演で非常に手ごたえがあって、上演の依頼も多く、最近の作品の中ではとびぬけて出来のいい子だったので、もう1回やりたいなと思っていました。劇団のメンバーも年を重ねているし、早くやらないと再演が不可能になると思っていたところ、2019年の『はないら』で新しい劇団員が加わり9人となって役がちょうどハマり、満を持して再演という感じです。

—— 当時は僕ら男性が40代前半で、女性がだいたい35歳ぐらいと、一般的な夫婦の設定だったのですが、今回は15年経って、新しく劇団員になった女性たちが初演時より若い。そこで、変なルールに縛られる家族の話なので、父親の遺言という家訓として、若い女性と結婚しなければならぬというルールを足そうと思っています。

矢作—— 今回の作品の内容としては、どのような点が見どころなのでしょう。

土田—— たぶん皆さんも、自分だけが感じている、気になっていることがあると思う。例えば、カラオケで、自分が歌っている時だけ、みんなが積極的に聞いてない気がするとか。僕は京都で演劇をやってきて、5つ上に松田正隆さん、鈴江俊郎さん、さらに上にマキノゾミさんがいて、彼らが注目されている中で自分だけ軽んじられている感じがずっとしていました。そんなときに昔の白樺派の集合写真を見て、有島武郎さんや志賀直哉さんがいる中、誰だかわからない人がいる。これは僕だと思って。そのコンプレックスがスタートで、どうしても注目をされない人物が、目立つために「なるべく派手な服を着る」という内容です。

矢作—— 家訓というのはこの作品にとって大きなポイントになるのでしょうか。

土田—— コンプレックスの源自体が思い込みだったり、自分の容姿や、親に言われたことや、傷ついた言葉に縛られて、大人になっても気にしている人が多い。この作品の次男はずっと、「なんで俺は長男じゃないんだ」「畜生。長男ぶって」と言い、出世よりも長男になりたい。普通だったらどうでもいいのですが、父親の言葉が、家族全員の縛りになっている。彼が考えていたことも、家庭で植え付けられた妄想だった。そこから脱却していく話です。「目立たない」「なんでだろう」と書きだしたら、だんだん家族の話になっていきました。

矢作—— コロナ禍により舞台芸術活動がままならなくなっている中で、MONOは劇団というスタイルを堅持しながら継続されていますが、何か、意識されているものなのでしょうか。

土田—— こういう劇団にするぞという積極的な方針はないのですが、上下を作って看板俳優が威張って、新しい人たちが手下のように動き、その人たちがだいたい3年周期で入れ替わっていく、そういう集団を作りたいとか、嫌なことだけを忠実に避けていたら、穏やかな人ばかりが集まってきました。もともといる劇団員の5人も、

桑原—— KAAT 神奈川芸術劇場の芸術監督として、さまざまな企画や試みをされておられる長塚圭史さんですが、まず、参与から2021年4月に芸術監督になられたことで心境や環境の変化はありましたか。

長塚—— 視界は変わりました。自分が企画に携わっている作品は、初日には緊張するし、そういうことは芸術監督に就任するまでは、参与の期間でもないことです。参与のときは、いろんな方に話を聞いて、劇場が普段慣れてしまっている部分について指摘し、広報のあり方を意識的に見たり、それを有効に変えるにはどうすればいいのかを考える時間でした。

桑原—— KAATは前芸術監督の白井晃さんの頃から面白い企画をされていますが、白井さんが作ってこられた劇場のあり方と、圭史さんが引き継いだときに、大きく変えてみようと思われたことはありますか。

長塚—— 県内に向ける視点という点が、大きい違いかもしれません。白井さんは、もっと広い意味でKAATという劇場を知らしめようと、あれだけの数の公演をし、大いに知られ、関心を抱いていただけるようになった。ただ、地元の方には、まだあまり知られていない。劇場に人を呼ぶだけでなく、僕らのほうが人に会いに行き、僕らのほうから作品を劇場の外に出していく。県内を巡演する公演を行ったり、広報誌を地域の方たちとの出会いの場に変えてくとか。

例えば、県内7カ所の劇場を廻るカナガワ・ツアー・プロジェクトを企画しました。西遊記の一行が、天竺に向かう途中で神奈川県に迷い込む。日ノ出町の映画館の前で、三蔵法師が野垂れ死にとうになっている。そこから、横須賀の孫悟空や、海老名にいる沙悟浄を探して、県内の様々な神様などに助けを借りながら、天竺の道に戻るという演劇を県内のいろんな劇場で上演しました。そのとき、財政も事情もそれぞれの劇場で違うし、実はある劇場からは、これって一回やりに来たら終わりでしょ、と言われました。そうなんです。継続することなんです。これはとても有難いご指摘でした。毎年同じ会場に行けなくても、近くの会場に行き、また観に行きたいと思う方が来られるような方法で廻していけないか

と、計画しています。

桑原—— 確かに、面白いことをやるだけでなく、定着させていくという課題がありますよね。地元の方の反応はいかがでしたか。

長塚—— 横浜の映画館の名前が出ると盛り上がる。猪八戒は県内を食べ歩いている設定で、猪八戒の造形をしっかりと造り、事前に各地の飲食店に行って撮影し、美味しそうに食べている写真が登場しました。地域の歴史的題材を取り上げたり、地元の神仏が登場すると、住んでいる街のことを知るきっかけにもなり、みんなとても喜んでくれました。

桑原—— 私も北九州でお芝居を作った時には、地元の名所やお店を脚本に取り込みました。「資さんうどん」とか。

PLATでも2021年に、「ぶらっと文化祭」を企画したんです。ホールの中だけでなくいろんな場所を使ってアートや演劇を同時多発的に展開することで、PLATの交流スクエアに勉強しに来ている高校生や通りかかった人にも立ち止まってもらいたいと思って。屋外で開催した子ども向けワークショップの様子を通りかかりの人が見たり、コロナ禍でしたが、できる範囲でやってみて。

長塚—— 素晴らしいですね。確かにPLATでは学生が

KAATがあることを、
耳にタコができるぐらい言い続ける。
長塚圭史 KAAT神奈川芸術劇場芸術監督

創作の幅を広げていく圭史さんが、
すごく楽しみです。
桑原裕子 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化アドバイザー

勉強するという姿がある。それはとっても印象的。

桑原—— 圭史さんはトップクリエイターとして以前から第一線で活躍されていましたが、そんな圭史さんの動きに変化を感じたのが、まつもと市民芸術館の総監督の串田和美さんと活動されるようになってからという印象があります。近年では阿佐ヶ谷スパイダースに劇団員をたくさん迎えられ、子育てしながらも参加できる劇団を作ろうとされたり、ご自身のキャリアだけでなく、演劇界全体のことを考えておられる、それは何かきっかけがあったのですか。

長塚—— 串田さんの影響がありました。街を歩いていると、「串田さん」と声を掛けられて、すごいなと思った。街と劇場が風通し良く繋がっている。うらやましく、健全に見えました。もっと濃いお客様との出会いができないかなと思いました。

桑原—— 私にとって、若いころの圭史さんって都会的で洗練されている「東京の象徴」みたいな感じだったんです。東京のど真ん中にいる人が、松本で、何か違う遊びをしている。今度は横浜という場所で、芸術監督になられている。創作の幅を広げていく圭史さんが、すごく楽しみです。最初の任期である5年で、何か、達成し

たいことはおありですか。

長塚—— 基本的にはしつこくやることしかない。最初に掲げたことを繰り返し、飽きるほど言うこと。この劇場を神奈川県のお客様にもっとひらいていきたい。県にこんな素敵な劇場があることを示したい。劇場とはどういう場所か知らせたい。とにかく言い続け、任期5年でやっとなら、ちょっとだけ聞こえたらいいなって思っています。継続し、耳にタコができるぐらい言い続けることを、とても意識しています

桑原—— 新国立劇場の小川絵梨子さんや彩の国さいたま芸術劇場の近藤良平さん、世田谷パブリックシアターの白井晃さんと定期的に開催されている「芸術監督公開トーク」は、監督同士の情報共有の場として始められたのでしょうか。

長塚—— 最初、白井さんや小川さんの発案から始まりました。お互いの劇場で何をやっているかを話し合えれば、それぞれの事情や課題を共有できるし、そんなに多くない劇場に足を運ぶお客様を取り合っていていしようがなく、やはり共有していかなければならないし、そこから伸ばしてかなければならないという思いがあります。

桑原—— 芸術監督同士が意見を交換して繋がりをもち、共に考える仲間を増やしていく。その中に豊橋も混ぜてもらえるならすごくうれしいなと思います。

最後に、KAATに行ってみたい方に向けて、メッセージをお願いします。

長塚—— KAATはコンセプトを持って、メインシーズンにはタイトルを設けて、劇場全体で時間をかけて年間のプログラムを作っています。多分、国内で主催事業をこれだけやっている公共劇場はなく、エネルギーが詰まった場所です。そして横浜は楽しい。中華街や馬車道、元町もあるし、観光地でもある。近くに遊びにいらした際に、ちらっとのどきに来てくれると、何かとてつもなく面白いものに出会うことができるかもしれません。

桑原—— 短い時間でしたが、沢山のお話を伺いました。今日は本当にありがとうございました。

長塚圭史[ながつか・けいし]
／劇作家・演出家・俳優。
1996年、演劇プロデュースユニット阿佐ヶ谷スパイダースを旗揚げし、作・演出を手掛ける。(17年劇団化)。08年、文化庁新進芸術家海外研修制度にて1年間ロンドンに留学。11年、ソロプロジェクト・葛河思潮社を始動。17年、新ユニット・新ロイヤル大衆舎を結成。21年4月よりKAAT神奈川芸術劇場芸術監督。KAATでの近年の演出作品に『王将』三部作、『近松心中物語』、『冒険者たち～ JOURNEY TO THE WEST～』、『夜の女たち』など。23年2月～3月『蜘蛛巣城』(KAAT神奈川芸術劇場他)に出演予定。

PURA PURA
バラコの
寄り道
ぷらぷら



せんが やすなりわかね
千賀さゆり & 安成紅音 リートデュオ
春を告げる歌曲たち

3月24日[金]18:30 開演

皆様こんにちは!私たちはドイツリートをこよなく愛する声楽&ピアノのデュオです。ドイツリートとはドイツ語の歌曲のことで、ピアノと歌が一体となって作り上げる音楽と、詩の美しさが醍醐味です。それぞれの曲に対する私たちの愛を、トークも交えながらお伝えしたいと思っております。今回は、春が来る喜びやお花を題材とした素敵な歌曲を集めました。私たちと一緒に、音楽で春の訪れを感じてみませんか?心からお待ちしております。

Profile

豊橋市出身の千賀さゆり(ソプラノ)と福岡県出身の安成紅音(ピアノ)のデュオ。愛知県立芸術大学にて2学年差の先輩・後輩として出会い、学年の垣根を越えて交流、それぞれ同大学院を修了。声とピアノのアンサンブルの面白さに魅了され、在学時より積極的にリートに取り組んでいる。2019年愛知県立芸術大学学内ホールにて「シューマン 歌曲の夕べII」に出演、《女の愛と生涯》を全曲演奏。その他様々な演奏会に出演し、ドイツリートを演奏している。

次回、9月8日[金]14:00 開演

「詩人アイヒェンドルフの森」公演予定!

シグナル
SIGNAL

音の遊び場

～彩り豊かな打楽器の響き～

5月31日[水]14:00 開演

みなさんこんにちは、パーカッショントリオのSIGNALです。『音の遊び場 ～彩り豊かな打楽器の響き』と銘打った今回の演奏会では、打楽器のために書かれた音楽を取り上げます。ただでさえ膨大な種類がある打楽器ですが、叩いて音が出るものはなんでも打楽器になりますので、ユニークな響きのある作品が数多く存在します。目でも耳でも楽しめるような演奏会、みなさまのご来場を心待ちにしております。

Profile

2018年に東京藝術大学打楽器専攻に入学した小林公哉、成田花南、柴田知明によるパーカッショントリオ。2021年3月に長野・愛知・東京の3ヶ所で開催した「SIGNAL 1st Concert」を機に結成した。3人とそれぞれの豊かな個性と、4年間共に音楽を学んだ仲間同士だからこ生まれる一体感を持ち合わせている。

若手音楽家育成事業

プラット
ワンコインコンサート
2023 上半期

入場料500円、上演時間60分の「プラットワンコインコンサート」は、地域ゆかりの若手音楽家の育成と、地域の人々に上質なコンサートを気軽に楽しんでもらうことをコンセプトに2014年からスタートしたPLATオリジナルのコンサートシリーズです。

オーディションで選ばれた若手音楽家たちの個性豊かなステージにご期待ください!

会場=PLATアートスペース



©Ayane Shindo

いしづかかずき
石塚和基
ヴァイオリンは4弦色?!

6月16日[金]19:00 開演

人は100万色以上を3原色に反応する目の細胞によって見分けますが、100倍の1億色を1色多い4原色に反応する細胞で見分けることができる人が存在するそうです。ヴァイオリンには4本の弦が張られています。そこから発せられる4原色(弦色)はまさに多彩です。当日はどんな色を皆さまにお届け出来るでしょうか。お馴染みの曲を中心にしたプログラムを、この小さな楽器から紡ぎ出される4弦色とお客様との化学変化を楽しみにお越しください。

Profile

新城市立千郷中学校、名古屋市立菊里高校音楽科、大阪音楽大学卒業、同大学院在学中。ウィーン国立音楽大学夏期セミナー・ディプロマ取得。ヴァイオリンを大岩紀栄、森下陽子、泉原隆志各氏に師事、現在木田雅子氏に師事。さかい九頭竜音楽コンクール金賞及び特別賞、津山音楽コンクール第1位、ディビラーコンクール第1位他受賞多数。青山音楽財団の助成を得てリサイタルを催し好評を博す。17Liveにてフォロワー数2万人達成。料理男子でもある。



©TAKUMI JUN

若手音楽家に活躍の場を
お客様にはより音楽を楽しめる機会を

はよださやか
濱田紗治伽
打楽器の宴

7月20日[木] 14:00 開演

皆さま、こんにちは。打楽器奏者の濱田紗治伽と申します。打楽器は、オーケストラなどでは、他の楽器を支える役割が多い楽器です。このプラットワンコインコンサートでは、打楽器が主役となり、打楽器の魅力をたっぷり堪能していただくコンサートにしたいと思っております。紀元前から存在する打楽器。現代までの道筋を辿りながら、一緒に打楽器・音楽の魅力を楽しみましょう!皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

Profile

豊田市出身。愛知県立明和高等学校音楽科を経て、東京音楽大学器楽科を卒業。第24回万里の長城杯国際音楽コンクール打楽器部門一般Aの部において第3位受賞。スター・クラシックス・アカデミア第3期生。これまでに和泉正憲、菅原淳、神谷百子、柴原誠の各氏に師事。現在、フリーの打楽器奏者として、セントラル愛知響、名古屋フィル、愛知室内オーケストラ等に客演のほか、ソロ、アンサンブルでの演奏会出演、小学校での訪問演奏等で幅広く活動中。



舞台手話通訳付き公演

『楽屋』

—流れ去るものはやがてなつかしき—

鑑賞レポート



昨年9月10日・11日にPLATアールスペースで劇場がさらに開かれた場となる試みとして、手話通訳者が舞台上で演劇を同時通訳する公演が行われた。演目には1977年以降多くの演劇人が上演してきた清水邦夫の名作『楽屋』が選ばれ、演出をPlant Mの樋口ミュが担当。このアクセシビリティの課題と向き合う実践は、劇場の可能性を広げるとともに、演劇そのものの新たな芸術的地平を切り拓いた。



取材・文 小島祐未子 編集者・ライター
声と手の言葉で織り成された上演に
劇場の、演劇の、新たな一歩を感じて。

近年、公立劇場では多様な観客を迎え入れるための取り組みが大きな課題となっている。子育て世代や高齢者のように生活環境に由来して劇場から足が遠のくケースもあれば、在留外国人のように母語での上演や広報が少ないため来場できないケースもあるだろう。そうした「劇場に行きづらい人」の中には様々な障がいをもった人たちもいる。穂の国とよはし芸術劇場PLATでは昨秋、聴覚障がい者とともに楽しめる鑑賞事業として舞台手話通訳付き公演を実施。これが興奮と気づきの連続だった。

演目は『楽屋—流れ去るものはやがてなつかしき—』。演出は樋口ミュ。『楽屋』は60年代から日本の現代演劇に影響を与えてきた劇作家・清水邦夫の代表作であり、樋口は関西から飛び出して全国で活躍する劇作家・演出家だ。彼女は2020年度すでに自身の戯曲『凜然グッドバイ』で舞台手話通訳付き公演に挑戦。その時はリーディング形式だったので、今回は満を持して本格的な演劇上演となった。

舞台手話通訳の役割は、作品のセリフや状況を舞台上からリアルタイムで伝えていくことだが、求められる内容は現場によって若干異なるという。そもそも日本国内での事例はまだ少なく、筆者もこの『楽屋』で初体験したのだが、樋口の演出、特に手話通訳者を俳優と同じように動かす趣向は、作品の性質ともあいまって非常に功を奏していた。

『楽屋』は登場人物4人で、文字どおりシチュエーションは楽屋である。女優A、女優B、女優Cをそれぞれ、

ののあざみ、大浦千佳、服部容子が務め、女優Dにはオーディション選抜の小野里満子が起用された。手話通訳者は『凜然グッドバイ』に引き続き、加藤真紀子、高田美香、水野里香の3人。一人の登場人物に対して一人の手話通訳者がつくわけではない編成だ。

幕開け、舞台奥から女優Aが現れる。彼女は短い手話を見せ、奈落へと降りていく。その手話は宗教曲が流れていることを伝えていたのだが、結果的に俳優と手話通訳者の垣根のなさが象徴的に浮かび上がったように思う。続いて手話通訳者の水野が奈落へ降りると、鉄砲階段と呼ばれるハシゴ同然の足場をつたって舞台上がる。以降の二人も手話通訳としては動きが大変で驚かされるも、みな俳優同様、どこか厳かな空気をまとってスムーズに登場。そこから彼女たちは、起きる事象を代わる代わる手話通訳していく。

女優Aと女優Bは楽屋に住みつく幽霊で、その劇場ではチェーホフの『かもめ』が上演されようとしている。楽屋の主はヒロインのニーナ役を演じる女優C。彼女は40代にして大役をつかんだらしく、妙に気持ちをたかぶらせている。そんな女優Cが舞台に出ていくと、女優Aと女優Bは彼女を辛辣に批評。やがて自分たちの芝居心が疼き出し、チェーホフやシェイクスピア、三好十郎の名作、名場面を演じ合う。しかし女優Dが登場すると、空気がまた一変。枕を抱いた虚ろな若き女優Dは、女優Cにニーナ役を返してほしいと迫る。舞台上には楽屋鏡をイメージさせる美術が並び、舞台周りの床板ははずされ、奈落が顔をのぞかせている。奈落は死の世

界を意味しているようだ。

ののとは大浦は、時におかしく時にシリアスな丁々発止の掛け合いで劇を弾ませていく。服部はヒステリックな演技も見せながら、生きた人間にとっての現実世界や演劇界の過酷さをにじませる。あどけなきの残る小野里も、役への執念を全身で表現。樋口によるキャストリングが冴えていた。そして何より並走する手話通訳者3人が、喜劇的であったり悲劇的であったりするニュアンスも含め客席に伝えていくのは圧巻。やがて手話通訳者たちも楽屋に住まう「声なき存在」に見えてくるから面白い。

また『楽屋』という作品は女優の話であると同時に、戯曲・演劇の話でもあり、ひいては言葉の話とも言える。劇中、生きていた時代が違う女優Aと女優Bが海外戯曲の新旧翻訳の差異で採めるシーンがあるが、太古の昔から演劇人たちは言葉とともに格闘してきたのではないか。劇作家は一言一句に心血を注ぎ、演出家は言葉を読み解いて具現化し、俳優はひとと言ひと言のセリ

フに全身全霊で立ち向かう。それでいて言外の何事かを浮かび上がらせようとしてきた演劇に、今回もう一つの言語＝手話が入ったことで、あらためて言葉の持つ力を思い知らされた。特に冒頭と終幕。誰の言葉ともわからない、まるで闇から届いたようなフレーズは作品に不思議な気配を与えている。これがナレーションと手話で同時に繰り出されると、言葉が何倍にも増幅され、ゾクゾクさせられた。

もちろん前述の感想は、耳が聞こえている筆者のものではある。一緒に観劇した聴覚障がい者の人たちがどう感じたのか、本当のところは知り得ない。ただ、客席全体が同じリアクションをする瞬間があったのは紛れもない事実だ。私たちに個性差、個性があっても、共有できるもの・ことを増やせば、時間や空間、人生を分かち合える。舞台手話通訳付き公演『楽屋』には、劇場ができることの可能性を実感した。そして自分自身ができるアクションとして、以前から興味があった手話を少しずつ学んでみたいと考えている。



FOYER



託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで



マイセレクト4
2022



マイセレクト4
2023

マイセレクト4 対象公演

MONO『なるべく派手を服を着る』初演舞台写真



撮影：谷古宇正彦

とよはしアートフェスティバル2023 大道芸inとよはし



撮影：伊藤華織

立川志の輔 独演会



『エンジェルス・イン・アメリカ』



Direction: OGUURA Toshimitsu Photo: FUJIKI Miho

木ノ下歌舞伎『糸井版摂州合邦辻』



撮影：東直子

2/23 [木・祝] 15:00開演
ピーピング・トム『マザー』
●構成・演出＝ガブリエラ・カリーン
●ドラマツルク・演出補佐＝フランク・シャルティエ
●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般4,000円ほか

好評発売中

2022マイセレクト4

3/4 [土] 14:30開演
3/5 [日] 14:30開演
市民と創造する演劇『悲劇なんてまともじゃない』
●原作＝ウィリアム・シェイクスピア●上演台本・演出＝山田佳奈●出演＝オーディションで選ばれた市民／井上ほたてひも、益山寛司●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般2,000円、U25 1,000円、高校生以下500円※4日(土)は終演後トークあり。5日(日)は視覚に障がいのあるお客様のための舞台説明会あり(要事前予約)。

好評発売中

3月4日のみ

3/18 [土] 14:30開演
3/19 [日] 14:30開演
MONO『なるべく派手を服を着る』
●作・演出：土田英生●出演＝奥村泰彦、水沼 健、金替康博、土田英生、尾方宣久、渡辺啓太、石丸菜菜美、高橋明日香、立川 茜●会場＝PLATアートスペース●料金＝[全席指定]一般4,000円ほか※3月18日(土)は終演後トークあり。

好評発売中

2022マイセレクト4

3月18日のみ

4/30 [日] 14:00開演
プラット2023年度 年間プログラム説明会
2023年度、プラットがお贈りする主催・共催プログラムをご紹介します。●会場＝PLATアートスペース●料金＝無料(要整理券または劇場ホームページから要申込)※整理券はプラットチケットセンターにて4月1日(土)より配布開始

5/4 [木・祝]・5 [金・祝]
とよはしアートフェスティバル2023
大道芸inとよはし
マイムにアクロバット、JAZZなどの超豪華ラインナップ。世界で活躍する大道芸人達がPLAT北側広場と屋外でパフォーマンスを行います。5月4日(木・祝)17時からはPLAT主ホールでスペシャルライブを開催。●会場＝PLAT北側広場ほか●料金＝無料※詳細は決まり次第、ホームページで公開いたします。

【関連企画】

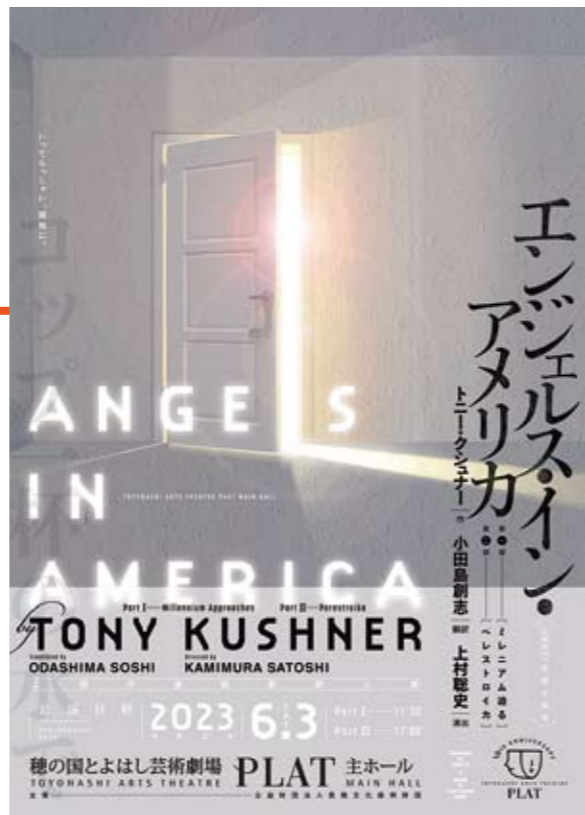
4/15 [土] 16:00～17:00
ぷらっとおしゃべり「大道芸inとよはし」について知ろう
大道芸のプロデューサー・橋本隆平を招いて、大道芸の魅力と芸人紹介を行います。●会場＝豊橋市まちなか図書館2階 中央ステップ

5/19 [金] 18:30開演
立川志の輔 独演会
古典、新作問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の輔による独演会です。
●会員先行＝WEB抽選のみ。申込期間＝2月17日(金)10:00～2月28日(火)19:00※申込方法等詳細はホームページでご確認ください。
●一般＝3月25日(土)●出演＝立川志の輔●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般4,200円ほか

6/3 [土] 第一部 11:30開演／第二部 17:00開演
エンジェルス・イン・アメリカ
第一部『ミレニアム迫る』
第二部『ペレストロイカ』
1991・92年の初演以来世界中で上演されている、トニー・クシュナーの傑作『エンジェルス・イン・アメリカ』二部作を一挙上演。オーディションを経た8名の出演者による、一部と二部をそれぞれ約4時間、計8時間の舞台をお届けします。
●会員先行＝3月18日(土)●一般＝4月1日(土)●作＝トニー・クシュナー●翻訳＝小田島創志●演出＝上村聡史●出演＝浅野雅博、岩永達也、長村航希、坂本慶介、鈴木 杏、那須佐代子、水夏希、山西 惇●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一部・二部通し券(S席) 10,000円、S席 6,500円、A席 3,500円ほか

6/14 [水] 13:00開演
木ノ下歌舞伎『糸井版摂州合邦辻』
生と死、聖と俗。長い変遷をたどり連綿と語り継がれてきた物語が、今また「生」を照らし出す。唯一無二の楽曲と劇世界を放つ劇作家・演出家・音楽家の糸井幸之介と、歌舞伎の現代化で注目される木ノ下歌舞伎のタッグにより生まれた、時空を突き抜ける音楽劇。
●会員先行＝4月8日(土)●一般＝4月22日(土)●作＝菅専助、若竹笛躬●監修・補綴・上演台本＝木ノ下裕一●上演台本・演出・音楽＝糸井幸之介●出演＝内田 慈、土屋神葉／谷山知宏、永島敬三、永井葉梨奈、飛田大輔、石田迪子、山森大輔／伊東沙保、西田夏奈子、武谷 公雄●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席4,500円、A席3,000円ほか

【ボランティアスタッフ募集】
『大道芸inとよはし』と一緒に盛り上げてくれる仲間を募集します!●業務時間＝各日 10:00～18:00を予定●参加条件＝18歳以上で事前説明会どちらか一日に参加できる方●事前説明会＝4月14日(金)19:00～21:00、15日(土)13:00～15:00●会場＝PLAT研修室(大)●定員＝40名程度(先着順)●申込方法＝①参加申込書を窓口、FAXにて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより



『エンジェルス・イン・アメリカ』

若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート
「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。
●会場＝PLATアートスペース
●料金＝[全席自由・整理番号付] 500円

3/24 [金] 18:30開演
『春を告げる歌曲たち』
千賀さゆり&安成紅音リートデュオ
千賀さゆり(ソプラノ)、安成紅音(ピアノ)

好評発売中

5/31 [水] 14:00開演
『音の遊び場～彩り豊かな打楽器の響き～』
SIGNAL 小林公哉(打楽器)、成田花南(打楽器)、柴田知明(打楽器)
●会員・一般＝3月23日(木)

6/16 [金] 19:00開演
『ヴァイオリンは4弦色?!』
石塚和基(ヴァイオリン)
●会員・一般＝3月23日(木)

7/20 [木] 14:00開演
『打楽器の宴』
濱田紗治伽(打楽器)
●会員・一般＝3月23日(木)

豊橋アーティスト・イン・レジデンス
ダンス・レジデンス2023
小尻健太
2022年10月に引き続き、4月29日から5月13日までの約2週間にわたり『Study for Self/portrait』ソロパフォーマンス再演に向けたりサーチのため豊橋市で滞在制作を行います。最終日には成果発表会としてダンスパフォーマンスをご覧いただけます。

5/13 [土] 14:00(予定)
成果発表会
●会場＝PLAT創造活動室A●参加費＝無料●申込方法等詳細は決まり次第、ホームページで公開いたします。

ワークショップ・レクチャー
映像ワークショップ「インタビューを撮影してみよう」
舞台映像作家による、インタビューの撮影から編集を学ぶワークショップです。
●日程＝3月21日(火・祝)10:00～18:00●講師＝山田晋平●会場＝PLAT 創造活動室B●参加費＝1,000円●対象＝高校生以上の方で映像の撮影・編集に興味のある方●募集人数＝9名(応募者多数の場合は選考)●申込方法＝3月10日(金)17:00までに①劇場ホームページの専用申込フォームより申込み ②参加申込書に必要事項を記入の上、窓口またはFAX(0532-55-8192)

平田満企画「対話を考える」vol.3
永井玲衣 哲学対話ワークショップ
身の回りのふしぎ、もやもや、なんで?どうして?そんなことを「問い」で表現して、みんなで育てて“てつがく”の時間です。一緒にゆっくり聴きあい、じっくり考えませんか。
●日程＝4月8日(土)13:00～17:00●講師＝永井玲衣、平田 満●会場＝PLAT創造活動室A●参加費＝1,000円●対象＝高校生以上●募集人数＝20人程度(選考)プラットで開催した哲学対話未経験者優先●申込み＝3月17日(金)17:00までに①劇場ホームページの専用申込フォームより申込み ②プラットチケットセンターの窓口・電話(0532-39-3090)で申込み ③専用の申込用紙によるFAX(0532-55-8192)

講座『社会的処方とアート活動ーイギリスの事例を中心に』
治療の一環で患者と地域活動をつなげるイギリスの「社会的処方」。現地のアート活動の取り組みと日本の現状を紹介します。
●日程＝4月22日(土)13:30～16:00●会場＝創造活動室B●講師＝中野詩(「美術待合室」主宰/独立行政法人国立美術館本部 研究補佐員)●対象＝高校生以上●定員＝30人程度(先着)●料金＝無料●申込＝プラットチケットセンター(☎39-3090)※プラットホームページからも申し込み可

高校生と創る演劇 出演者募集
公募による高校生出演者とスタッフが、劇場やプロのスタッフとともに上演する演劇の第10弾。今年は演出に吉田小夏を迎え上演します。
●対象＝2005年4月2日～2008年4月1日生まれで、稽古、公演日11月3日(金・祝)、4日(土)、5日(日)に参加できる方。●定員＝13名程度●審査＝5月20日(土)、21日(日)、28日(日)のいずれか●申込方法＝5月5日(金)17:00までに①劇場ホームページの専用申込フォーム参加申込書に必要事項を記入の上、窓口を持参

『楽屋』

—流れ去るものはやがてなつかしき—

TOYER



取材・文 小島祐未子 編集者ライター

アフタートークにも多くの観客が参加

舞台手話通訳付き公演『楽屋』では、両日とも終演後にアフタートークを実施。こちらにも障がいのある無に関係なく多くの観客が残り、興味、関心の高さがうかがえた。

余韻の冷めやらぬ舞台には、演出の樋口ミュ、手話通訳の加藤真紀子、高田美香、水野里香が登場。矢作勝義プロデューサーが進行役を務めた。まず樋口は2020年度の『凜然グッドバイ』を経た上で「手話が芸術的表現として取り入れられるとわかった」と語り、手話通訳者も俳優の一人として参加することが今回の大きな挑戦であったと明かした。それを聞くと、水野は出演依頼を受けた時「今回もやらせてもらえるんですか!」と喜んだこと、『凜然グッドバイ』の後に手話通訳者3人で「もう一度やりたい」と話し合っていたことを回想。高田も初日のアフタートークで「明日もまたやれる!」と喜びを隠さず、尽きせぬ意欲を見せた。加藤は10代から演劇経験があり、河合依子による監修の際も積極的に意思疎通をアシストしていたほど。ただ、加藤をしても劇中劇のふんだんな『楽屋』という作品の性質上、「人物の変わり目を表現する難しさや俳優のセリフの速さなどに苦労した」と語る。

樋口を含めた4人の話からは、舞台手話通訳はセリフだけでなく作品全体の空気を伝えるのも大事である一方、何もかもを説明したり解釈したりするのではなく、受

け手に託す部分も必要だということがわかってくる。ある意味どんな舞台公演でも共通の課題を彼女たちが共有できていたからこそ、すばらしい成果につながったのだと感じた。最後に樋口はユーモアも交えながら手話通訳者を『ジョジョの奇妙な冒険』のスタンドに例え、俳優を力強く支える存在として称賛。また、今回は俳優と手話通訳者が完全に一対の形式に挑みたいという新たな想いも聞かせてくれた。

なお、全国公立文化施設協会に加盟している約1300館のうち、多様な観客を受け入れるための取り組みができてるのは15%ほどだという。穂の国とよはし芸術劇場PLATの好例が広く知られることで、他の多くの劇場でも新たな出会いが生まれるよう切に願っている。

手話以外の方法でも鑑賞をサポート

聴覚障がい者の中には手話を用いない人もいるため、手話通訳の他にも、セリフや音楽・音響の説明などが表示されるタブレット型のポータブル字幕機、聞こえ具合を調整するFM補聴器の貸し出しが実施された。またアフタートークでは手話による同時通訳のみだったため、音声認識のアプリケーション「UDトーク」に誘導するQRコードを事前に案内。できる限り幅広く聴覚障がい者に対応する配慮がなされていた。

SUPPORT



知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

YOSHINO ASSOCIATES architects engineers
吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp

魚伊 有限会社 魚伊
電話 52-5256

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

ONOCOM 株式会社オノコム
なければつくる

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 数きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 蕎麦茶菓子専門店
若松園
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心安全な地下駐車場
パ・ケ500
プラット主ホール・アトスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 舟あくわ

井上皮膚科クリニック
診療時間 月・火・木 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL.46-3281 FAX.46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆 書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
サーラグループ

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く10:00-19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

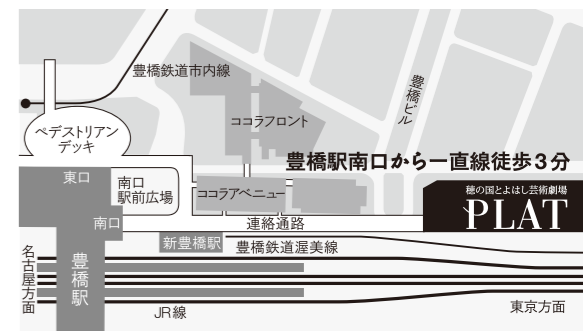


プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

U25・高校生以下割引のご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金
U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:1,000円
●購入方法
各公演の一般発売初日から取扱い。
●その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表](9:00-20:00)
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT